

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571000318		
法人名	医療法人やよい		
事業所名	グループホームよりさんせ		
所在地	光市三井6丁目18番1号		
自己評価作成日	令和4年12月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年1月23日		

「私たちは、利用者が自分の両親だったらと言う思いで接し、いつも笑顔でいてもらうためには私たちに何ができるかを考え、ここが自分の家だと思っていただけるように支援いたします。」と職員の思いを掲げ、職員一人ひとりが利用者様お一人おひとりに、常に心に寄り添える支援をしています。利用者様の小さな変化にいち早く気づきその方にあったより良いケアに結びつくよう情報を共有し、考え話し合いすぐに実践しています。又、利用者様の心の安定と、自己を肯定し「大事にされているんだ。」と感じていただけるために、職員2人に利用者様お一人で、その方にあったお出かけ対応、「社会とつながっているんだ。」と感じてもらうためボランティア(ZOOM対応)の方との触れ合い、いつでもテレビ電話を使用しご家族の方とつながっていただいています。当院理学療法士の指導の下、身体機能の維持向上するため毎日リハビリテーション、認知機能低下予防の卓上療法を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は毎日の昼食後会議等を通し、管理者は職員と意見交換を行い業務上の提案に対する支援を行っている。朝夕の申し送りでは白板を活用し水分管理・塩分計算・血液検査等、医療連携の根拠に基づいた、より効果的なケア方法に即応する実践力がある。コロナ禍による閉じこもりがちな生活の中、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援している。今できる事に着目し、できて自信になる事を大切にしている。折り鶴で季節の風物詩を作ったり、体力作りの廊下歩き・踏み台昇降・振動エクササイズ等の活動性向上やボランティアとのリモート交流による脳活性化活動や車窓からのお花見ドライブ・花の苗の植え付け等、役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等の支援をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスごとに事業所理念を再確認し日々の業務で実践につなげている。又、常に職員の目に留まるよう、事業所内に理念を明記したものを掲示している。	開設時に策定した理念と現管理者による「職員の想い」を掲示し、職員会議の冒頭に唱和して実践上の原点として意識統一を図っている。昼休みに気軽に意見交換し、個別的な生活作りに向けて仮説・実行・評価・改善を通した事例検討を重ね、理念等の具体的な達成度の検証を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動や、ごみ集積場の管理を当番制で請け負っている。コロナ禍ボランティアの方々との交流が室内でできないためZOOMを活用し、交流を図っている。	現在はコロナ禍により様々な活動が自粛となっている。ただ近隣の川沿い散歩・買物も兼ねたドライブ・受診・自治会活動等、日常的な外出支援を行っている。又ボランティアとのリモート交流や地域からの脳トレプリントや野菜の差し入れ等、相互交流もあり、地域との繋がりは続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページを作成し、どなたでも閲覧でき、気軽に相談できる体制をとっている。又、入居希望の方々の、日頃の相談に乗っている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	カンファレンスで自己評価、外部評価を回覧し、一人一人が目を通し説明等行っている。職員全員で意見を出し合い、管理者が意見をまとめている。内容については、具体策を話し合い実践している。	自己評価は管理者が職員に評価の意義を説明し、原案を職員間で回覧し、職員会議や昼食後会議で検討して管理者が集約している。職員は評価を通して日頃の実践の課題を把握し、外部評価結果に基づいた目標に対して事業所として達成すべく具体的な改善策に全職員で取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、医療法人全体の方針に従い運営推進会議の開催が出来ていない。2か月に1度、会議で報告する資料内容を職員で共有し、意見を出し合い運営推進委員にも、郵送している。委員の方から不明な点等を電話にて連絡をいただき、職員間で意見交換を行い、実践している。	最近の会議はコロナ禍のため書面会議となり、参加予定の利用者・家族・認知症の会代表・社会福祉協議会副会長・農協営農センター長・市職員等に会議資料を送付し電話による意見聴取をしている。農協での買物支援の際、利用者の移動スペースを拡張してもらう等、意見の反映例がある。	会議には多様な職種の参加を得ているが、コロナ禍でもあり家族の参加は少ない。参加していない家族との事業所運営に関する情報の共有に不十分な面がある。今後はコロナ禍での参加できない家族との情報交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初めに居室空き情報をファックスで送っている。災害についてのアドバイスをもらったり要望を伝えている。又、生活の中で不明なことを電話で相談している。	市担当課とは日頃の相談・報告の他、運営推進会議の事前照会で運営情報を共有したり、行政主催の研修への参加等を通して連携を図っている。又行政による新型コロナウイルス感染症支援対策の手続きや屋外からでは聞こえにくい災害警報の迅速な連絡等においても協力を得ている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修の参加し内部研修を行い、意識改革を行っている。安全を確保しながら、職員が拘束に繋がるような行いに気づいたときは(スピーチロック等)お互いに注意している。虐待防止委員をきめ、カンファレンスごとに委員会を開催している。	年4回の虐待拘束防止委員会や年2回の研修会を通し職員は拘束をしない必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。事例はその場で口頭で検証したり、ベッド柵からの転落に備え低床ベッドと下にマットを設置してリスク管理をしている。見守り同行以外、玄関は施錠している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の内部研修、外部研修を行っている。職員がゆとりを持てるよう業務の見直しを行っている。事故報告書を作成し原因など共有し、対策を講じている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自己学習や、外部研修を通じて学んでいる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を一枚ずつ、声に出して読み上げ家族や利用者に納得いくまで説明している。こちらから質問がないか尋ね十分理解が得られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情の受付ができることを掲示し契約時にも、文書、口頭で詳しく説明を行っている。家族面会時や、お電話で意見や要望を聞き記録に残している。早急に解決できるものはすぐに実践し、話し合いが必要なものは職員や他との連携で会議を行い、解決策を講じている。	家族の要望は窓越し面会・電話連絡・介護計画更新等を通して把握し、それを職員は適宜の職員会議等で共有して迅速な対応に努めている。コロナ禍による閉じこもりを心配し、家族からの利用者の外出要望に対し、事業所は受診他の機会を活用して気分転換を図る等、工夫をしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時とは別に、常に職員や意見の提案を聞く機会を作っている。昼休みには職員全員で食事をしながら、雑談を交え毎日のように職員の体制、利用者の支援方法について話し合っている。又、思いついたことがあれば伝言し、申し送りの時間に協議することもある。	適宜の職員会議、毎日の昼食後会議等を通して管理者は職員と意見交換を行い、業務上の提案に対する支援を行っている。朝夕の申し送りでは白板を活用してより効果的なケア方法に即応する情報共有をしている。床ずれ防止に多面的な評価をして良肢位保持クッションを導入した例もある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が言いやすい雰囲気を作り、意見を反映させ常に職場環境の改善に努めている。出来ることはすぐに整備し、大がかりなことは上司と話し合い、改善できるよう努力をしている。個人面談を行ったり、研修に参加してもらい仕事にやりがいを感じてもらおうようサポートしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が必ず研修に参加し、研修後は復命書を作成し、皆で回覧をしている。カンファレンス時、研修参加者が講師となり内部研修を行っている。	全職員は年2回の研修受講が基本であり、事業所は研修案内の中から各自の力量に応じた階層的な研修を提案している。外部研修後の復命書を回覧し、参加者が伝達講習を行い情報共有に努めている。新入職員には利用者に馴染めるよう居室に利用者名を書いて理解を早めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで情報を交換し、サービスの向上に努めている。(コロナ禍のためグループホーム協議会開催中止中)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や、家族とのコミュニケーションを取り、情報を収集し、安心できる関係を築けるようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	予約申し込みの段階から、情報の収集をし契約時家族に要望を聞くだけでなく、入居者の普段の様子から、今までの労をねぎらうなどの思いやりをもって、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決定する前に、施設見学をしてもらい、家族や、本人と面談したり自宅を訪問し今どのような支援が必要なのか、自宅環境や家族の様子、話の中から見極めるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る範囲を探り当て、家事に参加してもらったり、他の利用者の助けができるよう支援を行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別の「よりさんせ便り」を作成し、毎月家族に送り近況をお知らせしている。テレビ電話を活用し、遠くの家族でも、いつでも顔を見て話ができるよう支援をしている。利用者が望んでいることを家族に伝え、サポートしながら家族を交え実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、手紙、電話等でのやり取りを支援し、自宅周辺のドライブや、街並みを車内から眺めるなど、行っている。	家族には毎月「よりさんせ便り」を送付し、利用者の近況報告をしている。又電話を介した窓越し面会や手紙の授受・テレビ電話の取り次ぎ・街並みドライブ等、馴染みの場所・馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に関わり、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ場所で食事をしたり、気の合う者同士が支えあい、話し合いができるよう声掛けを行い孤立しないよう、寄り添う支援をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行った後も、自宅を訪問しグリフケアを通じ、家族の思いを傾聴している。看取り以外で退所された方も相談事があれば、連絡を取れるようにしており場合によっては、自宅まで訪問し様子を伺いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で利用者から収集した情報を、(会話、仕草、体の状態等)共有し、家族からの情報提供等から、本人の希望することは何なのかを考察し検討、計画を立てて実行に移している。	職員は利用者と一緒に話さず深く関わりを持ち、思いを汲み取って「気づいたことノート」を更新したり、介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。当初スプーンも持てなかったが、意欲が見えたのでリハビリや自助食器等を導入した結果スプーンで食べられるようになった例もある。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族、かわりにあった人達から、情報を収集し、支援内容の経過を記録し職員全員で把握している。気づいたことノートを作成し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、小さな変化でも気づいたことを職員間で共有できる体制を取っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人の有する能力の維持や向上を目的とし本人、家族、OT、医療と連携し、カンファレンスで意見を出し合い、介護計画書を作成している。3か月もしくは6か月ごとにモニタリングの結果から見直し現状に応じた介護計画書を作成している。	関係職種の意見も反映した計画原案を適宜担当者会議や昼食後会議で検討し、本案としている。計画作成担当者が3～6ヶ月を基本にモニタリング・計画を見直している。利用者の状態により床ずれ防止に専用クッションや自助食器の導入等、自立支援に向け立案している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りで様子や変化気づきなどを常に職員間で情報を共有し、意見を出し合い、良いアイデアがあればすぐに実践し支援する。日々個別のモニタリング表でチェックし見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変われば、皆で話し合い、直ぐに支援の方法を変更し実践しモニタリングしている。家族にも、細やかに連絡を取り現状を説明している。家族から相談があればできる限りの支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をリサーチし、楽しんでもらうにはどのようにそれらを活用するか、アイデアがあれば実践し支援している。地域ボランティアの自発的な協力も得られ利用者の豊かな暮らしに貢献してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の定期的なドクター回診を行っている。また専門医の受診が必要な時は家族の協力のもと受診を行っている。家族の協力が得られないときは、職員が付き添い受診を行っている。受診の結果を家族から聞き、かかりつけ医と情報を共有している。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、全利用者は協力医を主治医としている。協力医から月1回の訪問診療、協力歯科医は随時往診可能である。専門医の受診は主に家族が協力している。又、母体法人系列の介護医療院の看護師との連携も図り、適切な医療を受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排泄管理バイタル管理を毎日行い、異常がみられるときは医療と連携し医療処置が受けられる体制をとっている。薬の処方管理を看護師が行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者と、直ぐに連絡が取れる体制をとっており、情報も収集しやすいように関係を築いている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、入居後、何度か看取りについての指針を文書で家族、本人に説明し終末期についてのあり方をアンケートをとり確認している。出来るだけ本人、家族の希望に添えるよう看取り期にはチームを編成し支援を行っている。	要望があれば看取りを行っている。利用開始時に重度化した場合の対応及び看取りに関する指針を説明し了承を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い指針に基づき適切な支援を行う方針である。現管理者のもと、6年で5例を看取り、グリーフケアや振り返り会議も行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変や事故の初期対応に備えマニュアルを作成している。目につきやすいところにマニュアルを置きいつでも閲覧できるようにしている。ヒヤリハット事故報告書を記録し、予防策をみんなで話し合い再発防止に努めている。	各種急変時対応マニュアルを策定し手近で確認し易い所に常備して周知徹底を図っている。事故防止の実践力に繋げるべく事故報告書の作成・回覧・職員会議での総括を通して情報共有に努め、防止策等も運営推進会議で公開している。消防署立会いで心肺蘇生術等の指導を受ける体制もある。	急変や事故発生時に備えてマニュアルの整備や事故報告書の活用等を通して事案に対応している。ただ各職員の初期対応力に差があり、一定の実践力を保つ平準化に課題がある。計画・実行・評価・改善を踏まえた、更なる実践力の育成に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し目につきやすいところに置き、いつでも閲覧できるようにしている。実際災害避難した様子を職員皆で動画などを見ながら、情報を共有し、年2回以上の避難訓練を行っている。地域の方とも協力してもらえるよう環境づくりに努めている。	消防署の指導のもと、法人合同で夜間想定を含め、年2回の火災訓練と水害訓練を実施している。ハザードマップでは洪水・浸水警戒地域である。事業所も床上浸水した経緯があり、実際の災害避難の状況を動画等で見て職員間で共有している。地域との災害時の協力体制づくりに努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士気を付けあっている。日々引継ぎ時にはミニカンファレンスで意見を出し合い常に利用者の状態に応じた対応を心がけている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場や申し送りで気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気もある。よりさんせ便り他での個人情報の扱いも匿名化したり、事前の承諾を得ている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが聞きやすい環境や関係を作っている。自分で意思表示が難しい利用者には気持ちを押し量り寄り添っている。また家族とも意思疎通を図り気持ちを共有している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に寄り添い尊重し、その人にあつたケアを実践している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや季節に合った服装を支援している。美容師の訪問により、好きな髪形にカットできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感も大切に年間行事食や誕生日会のお祝い膳はとも好評をいただいている。利用者の状態に合わせておはぎを作り梅仕事、ドクダミ茶づくり等参加してもらっている。	毎日の献立は季節・食材・利用者の好み等を参考にした三食手作りだが、一部レトルト食の時もある。利用者は座ってできる手伝いをし、干し柿やおはぎ等、おやつ作りにも参加している。馴染みの喫茶店を利用したり、ドライブスルーの軽食を海辺で味わう等、食を楽しむ工夫もある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の日頃の様子や表情をよく観察し食事の形状を変えている。食事とは別にペットボトル1本分の水を一人一人準備し1日の水分量を把握している。ドクターと相談の上、持病を考慮したり好みに合わせた食事支援を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には嚥下体操や口腔マッサージを行っている。毎食後一人一人の口腔内の状況や力に合わせて口腔ケアを支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレの声掛けで、リハビリパンツ、パッドの使用量を減らしている。下肢筋力を維持するために毎日、個人にあった体操を取り入れ、トイレでの排泄が上手できるよう支援している。	排泄記録表で排泄パターンを把握してトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから布パンツへの移行等、利用者の状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。弄便のある利用者に対し、十種以上の便秘薬を医師との連携で薬剤調整して排便コントロールを整えた例がある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足も便秘の要因になるため、食事以外で1日にペットボトル1本分以上の補水液を飲んでもらっている。3日便秘が続くときは、冷たい牛乳の飲用、毎日の乳酸菌サプリメント服用を個人の状態に合わせて量を調節している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴中は職員との会話や歌を歌うなどして、コミュニケーションを取りながら楽しい時間になるよう努めている。車いす利用者はリフト入浴を導入し安全に配慮しながら、負担軽減にも努めている。	週2回の午前浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の状況によりシャワー浴・足浴やイスに座ったまま浸かれるリフト浴も導入している。冬至に柚子湯を提供することもあり、入浴が貴重なコミュニケーションの場ともなっている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	作業療法士によるリハビリや個人にあった体操、脳の卓上療法、散歩等を行い、心地よい疲れが得られるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者に処方されている薬について、職員全員が作用、副作用を勉強している。利用者の状況をよく観察し、疑問があればドクターと相談し、薬の見直しができるよう支援している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々な行事を一緒に行い(季節の祝い事、誕生日会、散歩、ドライブ等)生活がマンネリ化しないように、出来ることや本人が楽しいと思えることを見つけて関わる。場合によっては職員が間に入り利用者同士が上手く関われるようにする。	利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今できる事に着目し、できて自信になる事を大切にしている。体力作りの廊下歩きや踏み台昇降の他、折り鶴で季節の風物詩を作ったり、花の苗植え付け等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の頻度が減り、望む場所に行くことが、難しくなっているが、車でのドライブ(職員2人、利用者1人)で車窓から景色を楽しんでもらっている。日頃は天気の良い日は施設の傍の川沿いを散歩している。	コロナ禍で外出は川沿い等の近隣散歩、受診、初詣、買い物、お花見・梅見ドライブ・花壇の手入れ等を行っている。コロナ禍の収束状況により、従来実施していた季節の外出行事や地域行事等で「非日常」を楽しんだり、自宅への一時的な帰宅や外食等で気分転換を図りたい意向もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は金銭管理が難かしいため家族と相談の上、金銭を預かり本人の希望するものを購入している。1週間に1度移動販売を利用し、買い物を楽しんでいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と会話がしたいとき、プレゼントなどが送られてきてお礼が言いたいとき等、電話やテレビ電話がかけられるように支援している。年賀状、暑中見舞いを家族知人に書いてもらう。書くことが難しい利用者は写真を貼ってもらい、送る支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心が和むような季節の花を絶やさず飾り、天気の良い日は窓をしっかりと開け風をいれ、季節の移り変わりを感じてもらっている。壁にはたくさんの写真を掲示し、いつでも好きな時に眺められるよう、居心地がよくなるよう工夫している。室内は常に温度管理し森林浴ができるよう、気持ちよく過ごしてもらっている。	屋内外の花や季節行事の飾り付け、利用者とする壁掛け作品等で季節の移ろいを感じられるよう配慮している。利用者もお茶の袋詰めや金魚の餌やり等を手伝い生活感がある。イスに座ったまま浸かれるリフト浴等、自立支援に向けた環境整備もある。更に感染症対策で消毒や換気等にも万全を期している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも、どこでも気の合った利用者や、職員と談笑したり一人で好きな事が出来る場を提供している。部屋も開放しており、共有空間等自由に行き来できるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具や道具を部屋に置き、ほかに必要なものは出来るだけ用意している。自室で自分のしたいことが出来るよう、又気持ちよく過ごしてもらえるよう家具などの配置に気を配っている。	居室には寄贈や福祉用具貸与のベッド、クローゼット等が備え付けられている。和室仕様の居室もあるがベッドが設置されている。写経道具等、使い慣れた物や毛糸編み機等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。夜間排泄用にポータブルトイレを設置する場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来ること、したいことを把握しノートに記入。職員間で内容を検討し物品の準備、環境整備や手伝いなどを行っている。又、出来ることの日課を作り実行できるよう支援している。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホームよりさんせ

作成日

令和5年2月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	急変や事故発生時、各職員の初期対応力に差がある。	一定の実践力を保ち平準化に努める。	誰でもすぐに対応できるよう、マニュアルを見直し簡素化する。カンファレンス毎に具体例を挙げ、職員それぞれが、再確認しあう。	6か月以内
2	5	運営推進会議での、活動内容報告が全家族と共有できていない。	会議資料内容を家族と共有し、より一層家族との情報交換を図る。	会議資料を全家族に郵送又は手渡しをする。意見があれば受付たのち、カンファレンス時に職員間で議論し、対応できる体制を整える。	6か月以内
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。